

年頭のご挨拶

—国際惑星地球年 (IYPE) とジオパークと地質の日

佃 栄 吉¹⁾

年頭にあたりご挨拶申し上げます。

2008年は、国連が正式に宣言した国際惑星地球年 (UN International Year of Planet Earth; IYPE) の年です。日本では、昨年(2007)の1月22日にその開催宣言のセレモニーシンポジウムを行いました。また、その具体的な活動を支える実行組織「国際惑星地球年日本 (IYPE 日本)」も正式に立ち上がり、募金活動をはじめとする活動を開始しました。内容については是非 <http://www.gsj.jp/iype/index.html> をご参照ください。日本としては、アウトリーチ活動を中心として展開することを決定しており、「社会のための地球科学」を前面に出して、地球科学研究の必要性、重要性を広く社会に伝えることに力を注ぐこととしています。ジオパーク設立、地質の日、国際地学オリンピック参加への支援などが当面の重要な活動となると考えています。独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センターとしても、その社会的役割はIYPEの理念に非常によく合致しているものと理解しており、関係する機関と協力をしながら、IYPE日本の中核機関として活動を展開していく所存です。皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

日本にもジオパークをつくろう

日本地質学会と連携して、日本においてユネスコの支援するジオパークの設立に向けて活動してきました。昨年末には十数カ所の地域や自治体を中心となって、「日本ジオパーク連絡協議会」が設立されました。その活動の詳細は日本地質学会のホームページに逐次紹介されています (<http://www.geosociety.jp/geopark/index.php/>)。今後は、他の関係する学会や機関及び関係省庁と連携して、国内の認証組織としての「日本ジオパーク委員会 (仮称)」など具体的体制を確立し、日本のユネスコ国内委員会から、少なくとも一つは世界ジオパークネットワーク登録に向けた申請がなされるよう期待し、引き続き支援をしていきたいと考えています。

地質の日—Quality of Earth を考える日—
フィールドへ出よう

5月10日を「地質の日」とし、2008年から活動を開始することが、昨年3月に、関係する学会や機関が発起人となって決定されました。その具体的な活動については事業推進委員会の下で計画がなされています。今年はその記念すべき第1回となります。地域の地学系博物館や活動組織が中心となって、多くの魅力的な活動が企画されることを期待しています。野外に出て、大地の不思議さ、複雑さ、大きさなどに直に触れてもらい、社会と「Quality of Earth」が密接に関わっていることを実感してもらいたいと思います。是非、大きく発展して行ってほしいものだと期待しています。我々としても、研究活動の普及の場として大いに活用していきたいと考えています。

「地質調査総合センター (Geological Survey of Japan, AIST)」は、地質情報に関する日本の中核としてハブ機能を果たすことが重要と考えています。環境問題、防災問題、空間の利用において、ボーリング情報など大地の地下の情報はその公共財としての価値が十分に社会から認知されていないと考えています。昨年制定された地理空間情報活用推進基本法や海洋基本法など、地質情報整備に深く関わる新法に基づく基本計画策定に参加して行きたいと思っています。さらに、地質情報をより使いやすくするための標準化、品質管理、データベース構築をすすめ、「GEO Grid計画」などの新技術の導入により、安全で安心な社会の構築、社会の変革に貢献できる体制の整備にも一層心がけたいと思います。そのためには、さらに外部組織・機関との連携を図り「イノベーション・ハブ」としての機能を発揮する必要があると考えています。本年は、我々にとっても地球科学コミュニティにとっても従前以上に重要な年となると考えています。今後とも皆様のご期待にお応えできるよう努力する所存ですので、一層のご支援をお願いいたします。

1) 産総研 地質調査総合センター 代表
研究コーディネータ(地質担当)

キーワード: 国際惑星地球年, ジオパーク, 地質の日, 地質調査総合センター, 産業技術総合研究所, Geological Survey of Japan, 社会のための地球科学